

自分の英語とのつきあいかた

最近、中学英語に関する話題が賑やかになってきた。

中学の英語授業をオールイングリッシュにすること、評価テストが実施されることなどなど話題に事足りない。英語教育は大変興味があるが、教員免許に「英語」と書いてないことと仕事でも英語を担当していないので、詳細は控えておきたい。

しかし、プライベートでは、自由に楽しんで英語と関わることができるので、今週考えていたことを書いてみた。

実は、昨年の今頃は、大学院入試のために英語の勉強をしていた。

皆さんご存じと思うが、大学院入試の英語は学校のテストとちがう。辞書持ち込み可なので、専攻に関わる英文の下線部訳や概要、英文に関してどのように考えるか等の問題が一般的だ。

従って、受験対策は、過去問解答と英語原文を読むことを行った。

特にやったことは、John Dewey の The School and Society の英文の流し読みである。

英文は、辞書はほとんど使わず、わからなくてもそのまま流していくのである。教育関係の見たことある単語があれば、雰囲気とその語を用いての想像である。

あと、英語の weekly を購読しているので、その流し読みを行うことで、頭をちょっとだけ英語にしておく都合がよい。

しかし、何より大切なことは、外国の教育書の概要（日本語）の朗読で、教育や哲学に関する広く浅い知識をいかに持つかである。何せ、英語の研究をするのではなく、教育の研究を目的にしているので、英語はあくまでも手段である。

先日、文部科学省の英語を担当している偉い方の話を聞くことができた。

いろいろな話をしていたが、一番共感できたのは、「英語は、文法とおり前後しながら読まなくてよい。初めから順番に読み（聞き）進めばよい」とのこと。かつてラジオの英語講座でも同じようにいていた。自分の英語との付き合い方が肯定されたように感じた。

英語は学校で使うものではなく、学校卒業後にチャンスがあれば使えばよいのである。

今後、学校における英語教育も変わっていくと思うが、未来を生きる子供たちが、英語と付き合い続けることができるようになってもらいたいものである。

さて、金曜日に今週の weekly が届いているので、近日中に読みたいと思います。